

学校だより 12月号

令和6年12月2日(月)

「誇・光・力」
錦江中!



託された命をよりよく生きねば

校長 平國 弘明

校内文化祭が終わり、早1ヶ月となった。今年度は「Let's 青春～一度だけの青春～」というテーマで、各学年、教科、個人で取り組んだものが発表された。平和や命の尊さ、福祉やイノチャレ、弁論など身近でありながら社会的な問いかけでもある、すべての人がよりよく生きていくためにどんなことが必要なのかということ深く考えさせられる内容だった。特に2年生の創作劇「あの夏」では、助け合いの精神とは真逆な自分たちの利益や都合だけよければという、各国のエゴがぶつかった戦争を、家族、友人、仲間との関係から捉えたヒューマンドラマとして表現され、心に響くものがあった。メインテーマである「多くの尊い命の犠牲の上に今の平和がある」ということも観ている方に十分伝わったと感じた。第2次大戦における日本の犠牲者は、兵士、民間人を含め、約310万人(現在の鹿児島県の人口の約2倍)、全世界では6000万人に上るといふ。私たちは、それらの犠牲者の御霊を慰霊し、その人たちに報いていかなければならない。



今秋、沖縄に行く機会を得た。その際、沖縄県平和祈念公園及びひめゆり平和資料館を訪問させて頂いた。県外の高校数校の修学旅行生も来ていた。ひめゆり平和資料館では、笑顔で入館する現代の高校生と資料館玄関壁面に貼られた沖縄県第一高女生や師範学校生の笑顔い



っぱいの集合写真が戦争のない世界を演出する。資料室も始めは、平和な学校生活を伝えている。昭和20年3月のアメリカ軍の侵攻で様相は一変する。伝令、物資運搬、病院等に第一高女、沖縄師範学校(教員を養成する学校)の生徒、教職員240名が動員され、うち136名が犠牲となった。同年6月に軍の解散命令が出された(軍による組織的戦闘の終結を意味する)後の犠牲者が約86%を占める。戦闘地域に放り出された状態になってしまったからだという。館内に展示された戦闘の状況、再現された病院(病院と言っても洞穴や壕)、遺品や生存者のビデオ

証言など見るにつれ、見学の高校生の顔からは笑みが消え、それらに驚きとも悲しみともつかない表情で見入る姿がとても印象的だった。私も、知らず知らずのうちにこの世界に引き込まれていた。同行の方に声をかけられ、はっと我に返るほどだった。

このような事実が祖父母や曾祖父母の時代にあったことを忘れてはならないと改めて思う。現在に生を得た私たちは託された命を精一杯生きているのか、自分のため誰かのためによりよく生きようと努めているのか、戦後79年。今じっくり考えなければならぬのではないだろうか。

○School Trip!!

11月12日(火)～14日(木), 2年生は修学旅行がありました。長崎で平和・歴史学習, 福岡で安全と文化について学ぶ時間があり, 最終日には三井グリーンランドにて思い出づくりをしました。コロナの影響で集団活動がなかなかできなかった学年でしたが, 大きな怪我もなく無事に帰宅できたことが何より嬉しいことでした。



○家庭教育学級のご案内

10月14日(木), 錦江中学校被服室にて鹿児島県教育庁高校教育課から学校教育ICT推進班の時任志郎先生をお招きして子どものネット利用の現状についてお話しを伺いました。

12月6日(金)1・2年学年PTAの後に, 本校スクールカウンセラー平岡大介先生による「子どものSOSの受け止め方と対応」について家庭教育学級が開催されます。申込はすでに終了していますが, 興味のある保護者の皆様は是非ご参加ください。

○先生方も勉強(研修)頑張ってます

2年生が修学旅行に旅立っていた11月13日(水), 中学校では大隅地区の初任の先生方が集まり, 道徳の研究授業・授業研究がありました。本校1年担任の町永裕子教諭が授業提供を行い, それをもとに協議し, 学びました。授業を受けた1年1組の皆さんは少し緊張していましたが, 来校された先生方から「道徳の授業に前向きに参加しようとする態度に好感を持た」という言葉をいただきました。



○大根占小学校から

11月5日(火), 初任者研修の他校種参観というプログラムのため, 大根占小学校の濱田禎時先生が来校されました。全校朝会で挨拶をされ, 中3生の社会の授業を見学し, 中1クラスで昼食や清掃活動を体験されました。初めは緊張した面持ちでしたが, 少しずつ表情も穏やかになり, 生徒との会話も積極的にされていました。小学校と比べられて, 生徒や職員の動きの違いに気づかれ, それが子どもの成長と関わっていることを学べた時間となったとのことでした。



○5項目以上あてはまると・・・

- ネットに夢中になっていると感じているか
- 満足のために使用時間を長くしなければと感じているか
- 制限や中止を試みたが, うまくいかないことがたびたびあったか
- 使い始めに考えた時間より, 長時間続けているか
- ネットで人間関係を台無しにしたことがあるか
- 熱中しすぎを隠すため, 家庭や学校の先生等に嘘をついたことがあるか
- 問題や絶望, 不安などから逃げるためにネットを使うか

5項目以上あてはまる方は, ネット依存の疑いがあります。子どもばかりでなく保護者も気をつけないと依存症になりがちです。以下の6項目をポイントにお子さんとスマホやネットについて話し合ってみてはいかがでしょうか?

家庭内ルールの設定のポイント

- ルールはトラブルから自分自身を守ってくれるもの
- 話し合ってからルールを作り, 定期的に見直す
- 「守れる」ルールをつくる
- 基本的なルールをつくる
- 守れなかったらどうするかをあらかじめ決めておく
- トラブルがあれば必ず相談するように決めておく